

「東九州自動車道の開通と九州経済」及び 「九州における PPP/PFI の展望と意義」について

～第 3 回「九州の未来力 2030」を踏まえた一言提言～



<谷口博文>

● 経営感覚をもったパブリックガバナンスの改革こそ成長戦略の柱！
国の制度は官と民を峻別する考え方でできあがっているが、競争の厳しい地域経営の現場ではもっと柔軟に民間のやり方を取り入れていかなければ生き残れない。経営感覚をもったパブリックガバナンスの改革こそ成長戦略の柱

● 地域経済活性化のためには、地域を盛り上げさせるような「しかけ」が必要

東九州自動車道のようなインフラ整備ができて、また PFI などの手法があっても、地域をどのようにデザインするか、また活性化させるかといった、その地域の中長期ビジョンと、地元の熱意、そしてそれらをうまく融合させる「しかけ」が必要だと思います。



<益村真知子>



<高木 隆>

● 空港と高速道路で夢のある構想を！
東九州自動車道を徹底的に使うためには、インフラ体系を沿線に展開している空港とワンセットで考え、アジア諸国へネットワークを広げるような夢のある構想が必要ではないでしょうか。九州からアジアへのゲートウェイは複数あってもよいと思いますが、東九州自動車道の開通によって北九州空港などにもその可能性が高まったと言えるでしょう。

● 今こそ大胆な公共部門の改革で PPP/PFI を実効性ある制度に！
今後は、九州の既存のインフラネットワークを充分活用しきるための知恵や仕組み作りが一層求められる。
同時に、老朽化対策も待たず、インフラの新設と適切なバランスを意識することが必要である。
PPP/PFI はその有力な処方箋であるはずだが、いまだ機能不全の状況であり、今こそ大胆な公共部門改革によって PPP/PFI を実効性ある制度に作り上げていくべき。



<鈴木恵一>